

「豊かな教育を子どもたちに」

I 研究内容

1 研究内容の具体的内容と方法

(1) 甲州支会と山梨支会に分かれ、それぞれの課題について研究を進めた。

ア 甲州支会…『～今よりもっと～ 教育環境を向上させるために』

○予算分析及び予算運営の意識統一

○5 S活動への取組

○校外活動バス代調査

本年度当初予算・前年度決算等の分析、予算執行及び予算要求にあたっての意識統一

5 S活動についての学習及び実践プランの検討、値上がりするバス代の実態調査。

イ 山梨支会…『豊かな教育を子どもたちに』

○前年度決算・当初予算推移の結果分析

○項目別年間事務マニュアル作成

○私費の調査・分析

本年度当初予算・前年度決算の分析、年間の事務処理の流れを把握できるよう「項目別年間事務マニュアル」の作成、積立金等私費の調査・分析。

(2) 『東山梨教育研究2015年度号』内の「教育行財政及び教育環境の実態」を担当し、「教育環境の実態」についての調査を実施。様式及び調査項目の見直しを行い、東山梨地区の教育環境の実態把握及び改善点等を探る。

II 成果と課題

1 成果

(1) 甲州支会

継続した予算分析により自校の予算運営及び甲州市の課題を明らかにし、自校の改善と市への予算要望へつなげることができた。また予算運営(執行及び要求)に共通のスタンスであられるよう、意識調査を行いその結果を基にしながら各校の意識の統一を図った。新規研究の「5 S活動」実践は、テーマ・キーワードを意識しながら実践交流することで、より学習を深めることができた。校外活動バス代調査は、3年間の実績資料を作成することができた。

(2) 山梨支会

継続研究である予算分析を実施し、各自が自校の予算を分析、成果・課題をまとめることができた。「項目別年間事務マニュアル」作成作業を行い、完成したものを市教委担当者にも渡し、事務処理の共通認識を図ることとしている。私費の調査前に、調査事項等を全体で確認し、共通理解のもと調査を行った。市内の結果を比較分析しやすいよう平均値も算出した一覧表にまとめることができた。

(3) 全体として

教育環境実態調査の様式・調査項目を見直し、調査結果がより見やすくなった。

分散会形式で支会ごと研究を行ったことで、各市における課題を明確にすることができ、それぞれの市で抱える課題に対して直接的な取組が可能であった。各市教委への働きかけや5 S活動の取組等、具体的成果につなげることができた。

2 課題

(1) 甲州支会

市の予算に対する方針や姿勢が厳しくなる中、各校の予算積算根拠を統一していくことが急務であり、かつて実施していた算定基準の導入の是非について今後十分な検証と討議が必要である。また、今年度は調査に留まった「校外活動のバス代」について、調査結果をどのように生かしていくのか討議し取組につなげたい。「5 S活動」実践は更に一歩進めて、校内へ広めていけるよう研究を深めたい。また東山梨全体で実施している教育環境実態調査の結果を、甲州市の教育環境の向上に生かす方途も考えていきたい。

(2) 山梨支会

年度当初に予算分析を行うことにより見えてくる課題点について、各校だけでなく市内小中学校の共通要望として改善につなげる取組が今後必要である。私費の実態調査で得た大きな情報を、今後は継続調査、課題の洗い出しを行い、どのように活用していけるか引き続き検討が必要である。また、全体での情報交換を通して事務の標準化に取り組み意識の共通化を図ることで、課題解決の糸口を見つけていきたい。

(3) 全体として

教育環境実態調査の結果を、甲州市と山梨市2市の状況や校種別で比較したり、文部科学省等が示す整備目標を基に設定した項目の状況をみたりすると、改善すべき部分が多くあることが明確になった。この調査結果を生かすかどうか改善につなげるか、教育環境の充実を図っていくかが、大きな課題である。

また、支会ごとの研究が進むにつれ、事務職員だけでは解決できない課題に直面する場面が増えた。行政機関や管理職・教諭等他職種との関わりの中で、それぞれの立場を理解し合いながら価値観をよりオープンにし、同じ方向を目指していきたい。

III 成果物

1 甲州支会

- 予算分析調査表
- 予算運営意識統一
- 校外活動バス代調査 (H25～H27)
- 5 S活動実践プランシート

2 山梨支会

- 学校配当予算分析表, 学校配当予算一覧表, 学校配当予算・決算一覧表
- 項目別年間事務マニュアル
- 私費の調査・分析について (調査の目的, 実態調査入力表, 私費調査結果一覧表)

(部長 古木 美穂)